

二〇一九年六月七日

夫の船戻るを待てる日焼海女
雨憎し庭の紫陽花皆お辞儀
大杉に待るがごとく濃紫陽花

やよい

明日香

さつき

二〇一九年六月六日

夏草に隠れて傾ぐ売地札
保育士の四囲より子らの水鉄砲
蟻の道たたらを踏みし靴の先
達筆の御朱印帳の文字涼し
かけつこの子らを追越すつばくらめ
飛行雲スクランブルす夕焼空

たかを

たか子

たか子

そうけい

素 秀

せいじ

二〇一九年六月五日

螢火の水面に乱舞高瀬舟
花あふち砦に縄文遺跡あり

素 秀

三 刀

二〇一九年六月四日

豆飯を炊いて遺影に話しかく
たまねぎ干す不揃ひなれど庭の幸
さす棹に螢火絡む高瀬舟
万緑の底ひに隠れ耶蘇の里

はく子

菜 々

素 秀

なつき

二〇一九年六月三日

クレーンの掴まんとする雲の峰
注連縄の古りて下闇なせりけり

やよい

こすもす

園児らの目の高さなる花しようぶ

たか子

改札を出で入り自由つばくらめ

やよい

汗光る屋根師口より竹の釘

よう子

会釈して菖蒲田の畦譲り合ふ

たか子

明易や夫を看取りし日々のごと

はく子

二〇一九年六月二日

野辺の草摘みて供華とす露の墓
笑ひ声路地に洩れくる簾かな
鉢のもの息も絶え絶え大西日
梅雨じめりしたる投薬袋かな
シルバー族薔薇のテラスにティータイム

ぼんこ

智恵子

明日香

たか子

菜 々

二〇一九年六月一日

餌を欲りて鯉の競りあふ池薄暑
廃坑を塞ぐ格子に滴れる
野仏に鳴りつぐ風の小判草

ぼんこ

素 秀

智恵子

毎日句会みのる選・二〇一九年六月九日